

小児外科

(スタッフ)

- 部長 : 村守 克己 (2020. 4月から8月まで)
- : 江角 元史郎 (2020. 3月まで)
- 副部長 : 坂本 浩一 (2020. 4月から)
- 主任医師 : 福原 雅弘
- : 大西 峻 (2020. 3月まで)
- : 内田 康幸 (2020. 11月から)
- 嘱託医 : 佐藤 (森口) 智江
- 外来看護師 : 太田 麻美
- : 大熊 礼子

2020年12月のスタッフに関しては、坂本浩一が日本小児外科学会専門医です。

(診療実績)

大分県立病院小児外科は平成4年8月、県立病院移転にあわせて新設されました。飯田則利初代部長が27年間担当し、平成31年3月に定年退職しました。後任として江角元史郎部長が平成31年4月から令和2年3月までの1年間を担当し、その後村守克己部長が令和2年4月から8月までの5ヶ月間を担当しました。村守部長退職後(令和2年9月以降)は、部長不在の状態となっておりますが、11月からは常勤医師を1名追加し、4名の体制となりました。大分県最大の小児外科として、24時間体制での診療を継続しております。3名が交代でオンコール待機を行っており、あらゆる急患、緊急手術に対応できるようにしております。

当科は全県を対象の医療圏としているため、対応が必要な小児外科疾患も多岐にわたります。2020年においても、腫瘍、胆道閉鎖症、新生児疾患では食道閉鎖症、横隔膜ヘルニア、腸閉鎖症、ヒルシュスプルング病など、様々な症例の診療を担当させていただきました。

当科が開設された平成4年からの総手術件数は昨年末までで8,341件、うち新生児手術は467件に達しました。また、平成19年に導入した腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術(LPEC法)は令和2年度末で総計986例に到達しています。一方で、平成23年に1万人を切った大分県の出生数は、平成29年には9千人を下回り、令和元年集計では8千人を下回りました。これに伴う診療症例数の減少は避けられません。昨今のコロナウイルス禍による受診控えも大いに影響したと考えられますが、令和2年の新患外来患者数、総入院患者数、総手術数とも減少傾向にあります。しかしながら、少子化に伴い次世代を担う小児医療の重要性は今までもまして高まっておりますので、なお一層、受診された患児ひとりひとり、そして患児を取り巻くご家族のQOLを高められるよう診療を進めて参ります。

(研修・教育)

2020年は、大分県立病院初期研修プログラムから、研修医2名の方に小児外科の診療に参加・研修をしてもらいました。医師として4月からの最初の2ヶ月間当科にて研修した船木康介医師は小児外科志望であり、まず手術の見学から研修をスタートしてもらいましたが、短期間で成長しておりました。研修医2年目の成田靖医師は外科系志望であり、9月から当科で2ヶ月間研修してもらいましたが、多くの手術に入ってもらい、人員不足であった時期に小児外科の実践力としても大いに活躍されました。お二人の今後の活躍に期待します。また、大分大学医学部の学生実習として、たくさんの医学生さんに実習に来てもらいました。

全国的に外科医が不足し、小児外科においてもその全体数は十分とは言えません。これから進路を決めていく研修医や医学生に、直接小児外科の魅力をアピールできる機会を豊富に提供できる場として大分県立病院小児外科は最適であると考えます。

(今後の方向性)

坂本浩一、内田康幸は令和3年3月で退職し、4月より九州大学小児外科より伊崎智子新部長、山口修輝医師の2名を迎え、4名の新体制で診療を行っていく予定です。当科は紹介していただく病院の先生方、お子さん、保護者の皆様に支えられて診療をさせていただいております。大分県立病院小児外科を今後ともよろしくお願い申し上げます。

(文責：坂本浩一)

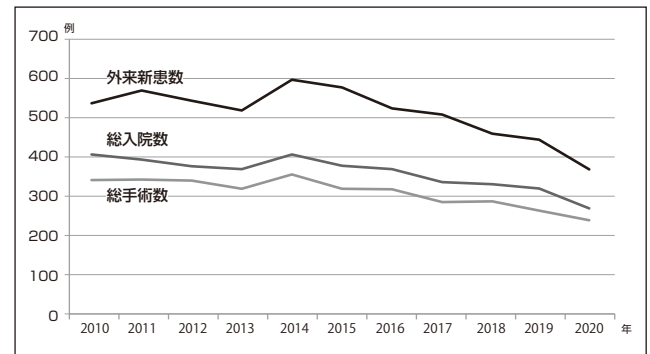


図 症例数推移

表 新患数・総入院数・手術数 (過去10年)

	外来新患数	総入院数	総手術数
2011年	571	393	344
2012年	543	376	342
2013年	518	365	319
2014年	596	407	356
2015年	580	376	319
2016年	524	366	317
2017年	508	336	284
2018年	462	330	289
2019年	442	332	265
2020年	371	276	241